

奥日光で観察した鳥の生態

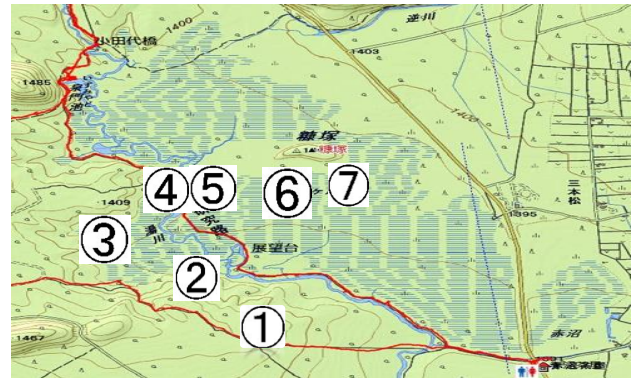
1. 研究目的

私たちは鳥の行動に興味があるため、多くの鳥が生息している奥日光の鳥の生態を調べ、去年の先輩の観察と比較し、オシドリの行動についてより確実なものにする。

2. 調査方法

戦場ヶ原で、双眼鏡を使ってフィールドワークをする。

撮影方法: 双眼鏡にスマートフォンのカメラのレンズを密着させ撮影する。



3. 調査結果

主に次の①～⑦の鳥を確認することができた。

図1 フィールドワークのコース

① オシドリ

場所：戦場ヶ原の小川

観察：・親ガモと子ガモと一緒に泳いでいた。

・オシドリが小川の近くの低い木に向って跳ねるという不思議な行動をしていた。

・オシドリを見ることができたが、オスを見ることは出来なかった。

文献：・カモ目カモ科オシドリ属に分類され、日本全国に分布している。冬季には本州以南へ南下し、越冬する。

・草の種子、果木の果実、水生昆虫を食べる。特に、シイ、ナラ、カシ類のドングリを好む。

・オスは羽がオレンジ色で派手だが、メスと子は地味な見た目をしている。

・足は水かきのようにになっており、黄色味の強いオレンジ色をしている。



図2 オシドリ

② マガモ

場所：戦場ヶ原の小川

観察：・砂州の上で嘴を使いながら毛繕いしていた。

文献：・カモ目カモ科に分類される。

・オスの頭は深い緑色をしていて、胸は栗褐色、尾には黒色のカールした羽をもっている。

・オシドリより赤味の強いオレンジ色をしている。

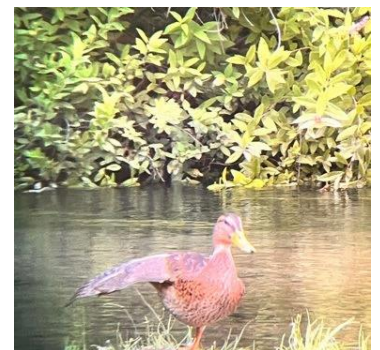


図3 マガモ

③ ウグイス

場所：戦場ヶ原の木の枝

観察：・木の間を跳ねながら移動していた。

文献：・スズメ目ウグイス科 全長約 14～15.5 c m

- ・「ホーホケキョ」と鳴くのが有名だが、自分の縄張りにメスを呼ぶのと、他のオスに縄張りの主張をする二つの意味がある。
- ・繁殖期である2・3月～7月半ば以外は、「チャッ、チャッ」や「ケキョケキョケキョ」と鳴く。



図4 ウグイス

④ コゲラ

場所：戦場ヶ原の木の幹

観察：・木の幹に止まってじっとしていた。

文献：・キツツキ目キツツキ科に分類され、キツツキの中で一番小さい。

- ・色は全体的に茶色だが、オスは後頭部に細くて赤い羽根がある。その赤い羽根は興奮したり風が吹かない限り見られないため、判別が難しい。



図5 コゲラ

⑤ カッコウ

場所：戦場ヶ原の木の枝

観察：・「カッコウ カッコウ」という鳴き声を聞くことが出来たが姿は見えなかった。

文献：・鳥綱カッコウ目カッコウ科に分類される鳥である。

- ・カッコウ科だけで約 150 種いる。
- ・呼子鳥、閑古鳥とも呼ばれる。
- ・動物食で昆虫類を始めとする節足動物等を食べる。
- ・他の鳥が食べないような毛虫を主に食べることで生存競争に有利となっており、解剖すると胃等に毒のある毛虫の毛が刺さっていることもある。
- ・まれに、卵やヒナを食べることもある。
- ・カッコウは托卵を行う。托卵とは、自分の卵と誕生した雛への世話を他の個体に托すこと。育ての親は仮親と呼ばれる。



図6 カッコウ

⑥ アオジ

場所：戦場ヶ原の高い木の頂上付近

観察：・「ピッツーピジジジ」と鳴いていた。

- ・お腹は黄色味を帯び背中茶色だった。

文献：・スズメ目ホオジロ科ホオジロ属に分類される鳥類である。

- ・主に開けた森林や林縁に生息している。非繁殖期には藪地などにも生息している。非繁殖期には群れを形成することもあるが、単独でいることが多い。
- ・用心深い性質で、草むらの中などに隠れている。
- ・植物の種子や昆虫類を食べる。
- ・繁殖形態は卵生。地表や低木の樹上に植物の茎や葉を組み合わせたお椀状の巣を作り、5-7月に1回



図7 アオジ

に 3-5 個の卵を産む。

抱卵期間は 14-15 日で、雌が抱卵し、雛は孵化してから 12-13 日で巣立つ。雄は繁殖期に縄張りをもち、高木の上などの高い所でさえずる。

⑦ ガビチョウ

場所：戦場ヶ原内の木の枝

観察：・姿を確認することはできなかったが、「チッ」、「ジャッ」と短い単音を発していた。

文献：・スズメ目チメドリ科に分類される鳥。



図 8 ガビチョウ

- ・同属のカオグログビチョウ、カオジログビチョウと共に外来生物法で特定外来生物に指定されており、日本の侵略的外来種ワースト 100 定種にもなっている。
- ・日本では里山など、人家に近い低山の雑木林が主なすみか、河原でも生息しており、民家の庭の木をソングポストにしてさえずっていることもある。
- ・地上採食性で、地上を走り回って昆虫や果実を食べる。
- ・繁殖期はつがい又は単独で行動し、非繁殖期は小群をなして行動する。

4. 考察

(1) オシドリの行動について

ハチのような昆虫を捕まえていたので、昆虫も捕食するのかと考えた。後日、調査すると、どんぐりなどの木の実以外に、昆虫も食べることが判明した。昨年先輩方は、オシドリがネズミを口にくわえている姿を目撃しているので、今後オシドリの生態について小動物も捕食するのかさらに調査する。

(2) 観察できた鳥類の種類が少なかったことについて

① 観察する時間が遅かったためと考えられる。

本来ならば、鳥類は早朝に活発に活動するが、私たちの観察時刻は 10 時頃だった。日が出ている中で観察しか行うことができなかったのも、夜間での観察も考え、先輩方が行っていた時間帯との比較ができるように、調査していきたい。

② 前日の大雨の影響も考えられる。

本来、タカやワシなどの猛禽類の活動時間なのに、ほとんど観察できなかった。天候に左右されてしまったのか詳しく調査していきたい。

5. 参考文献

「ウグイス」 (<https://www.birdfan.net/pg/kind/ord17/fam1713/spe171301/>)

「コゲラ」 (<https://www.birdfan.net/pg/kind/ord16/fam1600/spe160009/>)

「カッコウ」 (<https://www.birdfan.net/2011/06/03/14790/>)

「アオジ」 (<https://www.birdfan.net/pg/kind/ord16/fam1600/spe160009/>)

「ガビチョウ」 (<http://blog.birdfan.net/2019/06/28/71870/>)

(アクセス日はすべて 2023 年 1 月 13 日)

謝辞

日本野鳥の会 御代 時博先生ご指導ありがとうございました。